



探究ニュース Access No.3

発行日 令和元年10月28日

探究部では、皆さんの「好き」とことん追究する活動を応援しています。今回の探究ニュースでは、この夏休み中の活動の一部をご紹介します。

目次：

日本生物学オリンピック I

言語学オリンピック II

夏休みの活動報告 III

※現在、夏のA課題の中で、特色あるものを階段の壁に掲示しています。ぜひ、ご覧ください！

I. 日本生物学オリンピック

2学年の大橋尚君が日本生物学オリンピック予選で「優良賞」を受賞しました！
出場の動機や感想を聞いてみました。

◆出場の動機

「自然科学部の部長として、何か科学系のオリンピックの予選だけでも出たいなあと考えていたところ、友人から一緒に日本生物学オリンピックにでないか、と誘われ出場しました」。6月頃から本校の生物科の教員指導のもと勉強会を実施したり、期末考査の合間に生物の教科書を読むなど対策を進めていたようです。

◆当日の様子

「当日は、生物学オリンピックの問題は知識量というより、図表や文章などにある情報を読み取り、考えることを必要とする問題が多かったため、苦戦しました。」とは言え、十分な知識量も必要だったそうです。なかでも、遺伝子を扱った問題は、教科書をしっかりと読んだつもりでも解けなかった問題が多かったようで苦戦したとのこと。加えて、十分な勉強時間を確保できず、入賞の自信はなかったそうです。そのため、「優良賞」を受賞したときはかなり驚いたそうです。

◆東生へメッセージ

「私は、生物学オリンピックのおかげで、様々な知識や経験を得ることができました。科学や生物に興味のある1、2年生は来年参加してみたいでしょうか。私も来年、余裕があれば参加してよりよい成績を目指したいです！」

II. 言語学オリンピック

3学年の高橋翼君が言語学オリンピックに出場し、個人戦で銅賞を獲得しました！大会当日の様子を報告します。

試験会場は、韓国の龍仁にある韓国外語大学。

「問題は例年よりも簡単に感じました。しかし、会場には世界中の人がいて、雰囲気は圧倒され緊張しました。日頃、世界史の授業で使用している資料集に掲載されている内容が試験に出ました！」と言っていました。残念ながら、すべての力を発揮することはできなかった、とのことですが、素晴らしい結果です。海を越えた交流ができて貴重な経験になったようです。

Ⅲ. 夏休みの活動

4人の生徒が参加し、他の重点校の生徒と合同で活動しました。

ふくしま「学宿」～福島県教育旅行モニターツアー～

◆動機・テーマ

- ・被災地での生活や救助活動などテレビや新聞というメディアを通じた情報ではなく、直接情報を得たい。
- ・原発事故によってどんな被害があったのか。
- ・富岡町にある帰還困難区域を実際に見て、当時のまま残された建物や景観がどれくらい残っているのか、確かめたい。



東日本大震災や原発事故の概要と放射線や環境問題、復興に向けた取り組み、震災・原発事故の教訓をどう活かしていくのかなどについて2泊3日で学びました。

◆仮説

- ・被災の状況や声などはテレビや新聞などの情報しか自分に入っていないため、信用できるかどうかはこの次にしても、震災から8年もの月日が経っているため、かなりの地域が復興しているだろう。
- ・県外からボランティアをたくさん呼び込んだり、寄付金を使って復興してきた。
- ・農業では、福島で誇る米をいち早く再開させたのではないかと思った。
- ・廃業になったお店や建物は取り壊されているだろう。帰還困難区域は誰一人通る人がおらず、家の前に柵がずっと並んでいるのではないか。

◆活動結果

- ・帰還困難区域付近のフィールドワークを行った。道路を塞ぐように柵が置かれ、その先には除染作業を行っている人や車が動いているだけ。見た目は何ら変わらないのに、放射線という目に見えないものによって立ち入ることが出来ず、家に帰れない人もいる。
- ・これからのエネルギーのあり方を考えていく必要がある。太陽光パネルを並べて今までの景色を壊したり、事故の被害が大きい原子力発電、CO2の発生が多い火力発電などがたくさん必要なのは仕方ないことかもしれないが、新しいエネルギーを考えていかなければならない。
- ・帰還困難区域は車が数台通るが、ちゃんと開店しているのはガソリンスタンドだけであり、当時のまま放置され草が無造作に生え、壁がなくなって骨組みがほぼ剥き出しになっている建物もあった。



◆八王子東生に伝えたいこと◆

- ・1番伝えたいことは、メディアで報道されていることが全てではないということ。今回の合宿で学んだことは、メディアで報道されたことのない、その裏側ばかりだった。つまり、テレビや新聞では今の福島の様子がしっかり伝えられていないということ。
- ・福島の現状は、テレビや新聞で見ても伝わらないところがたくさんある。実際に見て、感じることで新たな発見や知識を得ることができる。今後、このような被害を起ささないために、福島に来て震災の現状を見てたくさんの考えたり感じたりすることがとても重要であると学んだ。今も地元の方々が1秒でも早く復興出来るようにと努力している。今しか見えない震災の有様をしっかりと受け入れて欲しいと私は思う。それが、これからの未来に繋がると信じているから。